

名護紅早生(なごべにわせ)

登録番号：第3581号

登録年月日：平成5年7月27日

登録者：沖縄県(沖縄県那覇市泉崎
1-2-2)

育成者：金城安秀 長山昭人 宮城

光則 長嶺安男 宮里勉

赤嶺民雄

来歴：台湾のタンカンの珠心胚実生
育成地：沖縄県名護市(沖縄県農業

試験場名護支場)

特性

台湾から輸入したタンカンの珠心胚実生が変異した早熟の品種である。

■栽培特性

樹姿は中間、樹の大きさおよび樹勢は中である。枝梢は細く、節間は中、刺は少ない。葉は小さく、翼葉はない。単為結果性は強く、生理的落果の多少は中程度である。日焼け果や裂果の発生は少ない。

■果実特性

果実の大きさは220g程度でタンカンとしては大果である。果形は扁球で、果形指数は120前後である。果皮は紅橙色であり、その厚さは3.6mm程度でやや厚く、果面の粗滑は中位である。剥皮の程度とじょうのう膜の硬さは中位である。果肉の色は橙色、種子数はわずかで3~4個程度である。果汁は多く、甘味は中位で糖度は11度程度であり、酸含量は0.5%程度でかなり少ない。

成熟期は、タンカンとしては早く、育成地では1月中旬である。「垂水1号」と比較すると、果皮色が紅橙で濃く、じょうのう膜がやや硬いことで区別できる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

穂木による導入ではなく、珠心胚実生であるので、タターリーフ・ウイルスに感染していないため、カラタチ台への接ぎ木あるいはカラタチ台温州中間台への高接ぎが可能である。病害抵抗性は、かいよう病に比較的強く、そうか病にも強い。果実には黒点病の被害が特に多いため、適期防除に努める。

短い結果母枝では着花数は多いが、結果に至らない傾向がある。長い母枝は着花・着果が安定するため、摘果や枝梢管理により適正な母枝の確保に努める。また、隔年結果しやすいので、適正着果に注意する。隔年結果防止のための適正葉果比は1果当たり100~120葉である。なお、隔年結果が予想される場合には予備枝を設け、着花量を減らし、隔年結果を是正する。

沖縄県では、早熟性である本品種を簡易ネット栽培することで、外観を向上させ、高品質果実生産に努めている。

■地域適応性

本品種は温暖地域において、品種の特性が発揮される。そのため、地域適応性は従来のタンカンと同様、九州南部、南西諸島のタンカン栽培地域に最も適する。

(新崎正雄)